

【セミナーのご案内】がん・自己免疫疾患・アトピー治療の最前線！ | 第48回（2026年）シスメックス学術セミナー

2025年ノーベル生理学・医学賞を受賞した「制御性T細胞（Treg）の発見を通じた末梢性免疫寛容に関する仕組みの解明」により、免疫治療の新たな可能性が広がりました。

本セミナーでは、こうした「免疫治療の最前線」をテーマに、免疫学の第一線で活躍される先生方に最新の知見をご講演いただきます。

また、本セミナーに参加し 日本臨床衛生検査技師会 生涯教育制度へ自己申請いただくと「10点」が付与されます。日々の業務に役立つ内容を幅広く学んでいただける機会となっております。

=====

■セミナー概要

=====

【テーマ】「免疫治療の最前線」

【開催日時】2026年5月30日（土）10:00～16:40

【開催形式】現地会場（神戸・松方ホール）・Web 視聴（ライブ）

【講演プログラム】

■Basic Seminar ☆2026年の新企画！最新医療をより分かりやすく聴講いただけます。

【基調講演】「免疫の病気、アレルギーの話」熊ノ郷 淳 先生

【講演】「皮膚からひも解くアトピー性皮膚炎の謎と新しい治療法」梶島 健治 先生

■Advanced Seminar

【基調講演】「免疫治療のOverview」熊ノ郷 淳 先生

【第一講演】「自己免疫疾患治療の最前線」田中 良哉 先生

【第二講演】「がん免疫療法の最前線」富樫 康介 先生

【第三講演】「遺伝子改変免疫細胞による次世代がん治療の展望」玉田 耕治 先生

※午前のみ・午後のみのご参加も可能です。

セミナー詳細・お申込みはこちらから

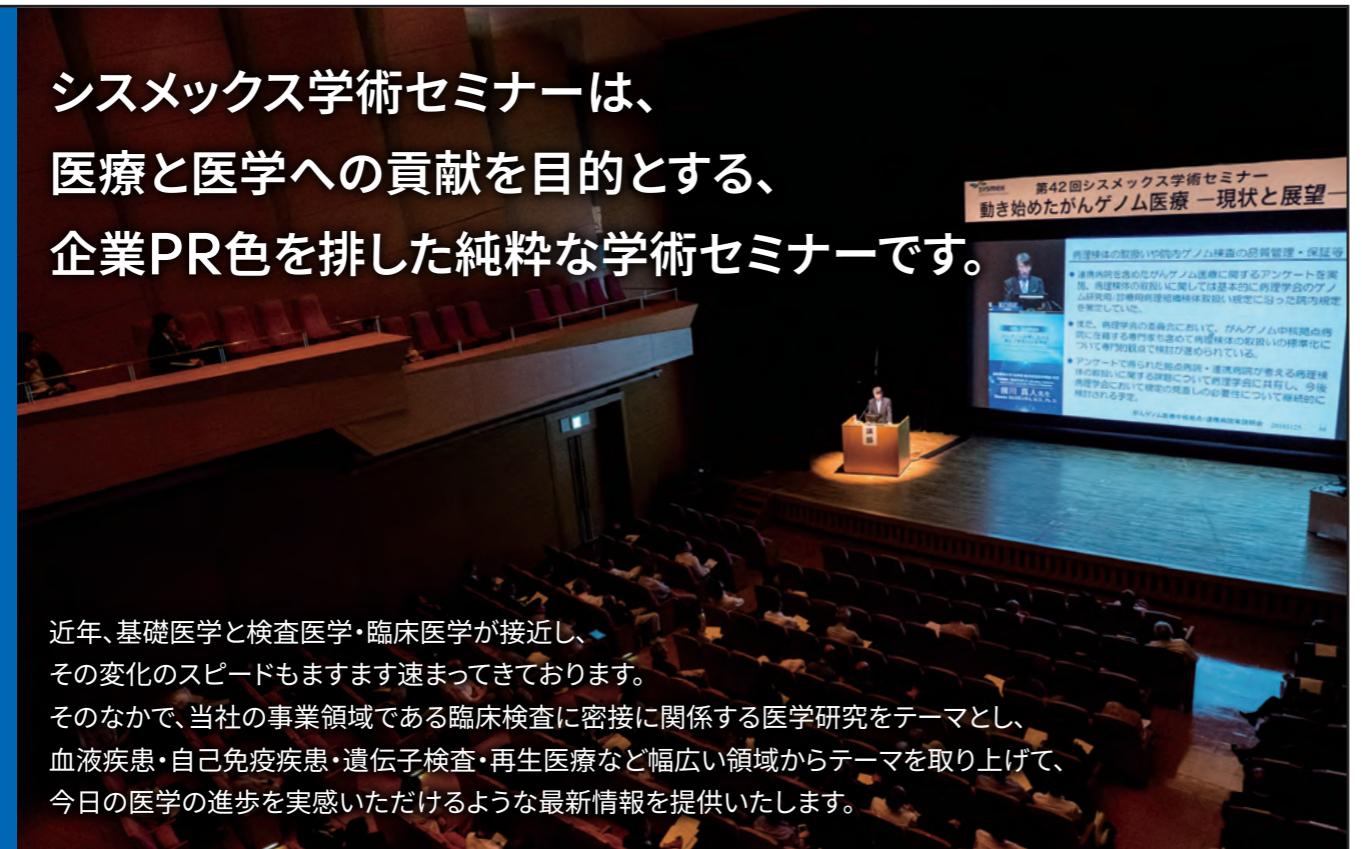
[シスメックス学術セミナー](#)

【学術セミナーに関するお問い合わせはこちら↓】

▼シスメックス学術セミナー事務局

SCP-madoguchi@sysmex.co.jp

皆さまのお申し込みをお待ち申し上げております。



シスメックス学術セミナーは、
医療と医学への貢献を目的とする、
企業PR色を排した純粋な学術セミナーです。

近年、基礎医学と検査医学・臨床医学が接近し、
その変化のスピードもますます速まっています。
そのなかで、当社の事業領域である臨床検査に密接に関係する医学研究をテーマとし、
血液疾患・自己免疫疾患・遺伝子検査・再生医療など幅広い領域からテーマを取り上げて、
今日の医学の進歩を実感いただけるような最新情報を提供いたします。

社会貢献

医療への貢献を目的として、**48年**の歴史を誇る、
累計**60,000人**以上の方が参加された学術セミナーです。

最新のテーマ

タイムリーに関心が高まっているテーマをピックアップ。
分野トップの専門医師による最先端の講演です。

国内外に配信

現地会場に加えて、**Web**によるライブ配信を行っています。
また、**5カ国語**対応で海外**22カ国**にライブ配信しています。

過去のセミナー動画を公開しています！



シスメックス学術セミナーサイト内「アーカイブ」にて、
過去のセミナー動画を視聴できます。

ご視聴はこちらから



NEW

第47回(2025年開催)シスメックス学術セミナーアーカイブ動画

正常組織における体細胞モザイクの新展開 —加齢に伴うゲノムの変異とがんの起源—

●過去のセミナー

第46回(2024年開催)
循環器病研究の未来展望

第45回(2023年開催)
クローン性造血
血液と全身臓器の幅広い繋がり

第44回(2022年開催)
血液疾患:診断がつむぐ明日の医療



第48回シスメックス学術セミナー

免疫治療の最前線

Basic Seminar —新企画! 最新医療をより分かりやすく!

基調講演 免疫の病気、アレルギーの話

熊ノ郷 淳 先生 (大阪大学総長)

講演 皮膚からひも解くアトピー性皮膚炎の謎と新しい治療法

梶島 健治 先生 (京都大学大学院医学研究科 皮膚科学講座 教授)

Advanced Seminar 免疫治療のOverview

基調講演 熊ノ郷 淳 先生 (大阪大学総長)

第一講演 自己免疫疾患の治療の最前線

田中 良哉 先生 (産業医科大学医学部 分子標的治療内科学特別講座 特別教授)

第二講演 がん免疫療法の最前線

富樫 康介 先生 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 (医学系)腫瘍微小環境学分野 教授)

第三講演 遺伝子改変免疫細胞による次世代がん治療の展望

玉田 耕治 先生 (山口大学細胞デザイン医科学研究所 所長)

座長 熊ノ郷 淳 先生 (大阪大学総長)

会場: 神戸新聞 松方ホール Web: オンライン配信(Live)

シスメックス学術セミナー企画委員会

【企画委員長】 矢富 裕 (国際医療福祉大学大学院 大学院長/教授)

【企画委員】 小川 誠司 (京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学講座 教授)

清井 仁 (名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授)

◎熊ノ郷 淳 (大阪大学総長)

平田 健一 (神戸大学 名誉教授/地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 院長)

前川 真人 (浜松医科大学 名誉教授/特命研究教授)

松下 弘道 (慶應義塾大学医学部 臨床検査医学教室 教授)

宮崎 泰司 (長崎大学原発後障害医療研究所 原発ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野 教授)

村田 満 (国際医療福祉大学 臨床医学研究センター 教授/慶應義塾大学 名誉教授)

【顧問】

熊谷 俊一 (社会医療法人 神鋼記念病院 原発病院リウマチセンター センター長)

直江 知樹 (独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター 名譽院長)



2026

5/30
[Sat.]

10:00-16:40

お申し込み
受付中!

→ シスメックス学術セミナー
<https://scientific-seminar.sysmex.co.jp>

※過去の学術セミナーの情報もご覧いただけます。



お問い合わせ
E-mail: sysemex-seminar@pac.ne.jp

シスメックス学術セミナー事務局



第48回シスメックス学術セミナーの開催にあたって —企画意図

企画担当(座長)／大阪大学総長

熊ノ郷 淳 先生

熊ノ郷先生に、各演題の注目ポイントを解説いただきました。ぜひご視聴ください。



免疫調節薬の代表格である抗体医薬や生物学的製剤は、免疫調節を目的とした分子標的薬として21世紀に登場しました。当初は関節リウマチをはじめとする自己免疫疾患の治療に用いられていましたが、その後、がん免疫療法や喘息をはじめとするアレルギー疾患治療へと応用が広がっています。現在、世界の医薬品売上の5~6割を免疫調節薬が占めている状況です。

さらに、血液がんの分野においては、抗体遺伝子を組み込んだCAR-T細胞療法や、2つの特異性を持つ二重特異性抗体(Bispecific Antibody: BsAb)などが登場し、免疫調節・免疫制御はさまざまな疾患治療のアンカードラッグとして定着しつつあります。今後も、免疫調節・免疫制御を切り口とした新たな薬剤の開発が次々と予想されており、診療科や疾患、分野の垣根を越えて、最新の知見を得ることの重要性がますます高まっています。

講演要旨

Basic Seminar



10:30 ▶ 11:30

専門知識がない方にも配慮した、わかりやすい講演です

皮膚からひも解くアトピー性皮膚炎の謎と新しい治療法

桝島 健治 先生 (京都大学大学院医学研究科 皮膚科学講座 教授)



皮膚はバリア機能に加え、外来抗原や刺激に応答する重要な免疫臓器である。私たちは皮膚炎症時に形成されるiSALT(inducible skin-associated lymphoid tissue)を発見し、局所免疫応答の理解を深めた。アトピー性皮膚炎(AD)はバリア損傷、アレルギー炎症、かゆみの三要素から成ると提唱し、これに基づき新たな治療法を開発した。外用JAK阻害薬delgocitinibはバリア修復と炎症抑制に、IL-31受容体抗体nemolizumabはかゆみ制御に顕著な効果を示す。本講演では、ADを中心に炎症性皮膚疾患の免疫応答と制御機構、Th2サイトカインやバリア分子制御、二光子励起顕微鏡による免疫細胞動態解析技術、基礎研究から治療開発への展望について紹介する。

Advanced Seminar



14:20 ▶ 15:20

がん免疫療法の最前線

富樫 庸介 先生 (岡山大学学術研究院医歯薬学域(医学系)腫瘍微小環境学分野 教授)



がん細胞は免疫系から巧みに逃れて生存しているとされている。特にその免疫逃避メカニズムの1つであるPD-1やCTLA-4といった免疫チェックポイント分子が重要で、それらを阻害する免疫チェックポイント阻害薬はがん細胞に対する免疫応答を活性化して効果を発揮する。「完治」したかのような場合もあるが、その頻度は低く、効果を高めるために様々な研究開発が行われている。たとえば他の免疫チェックポイント分子を標的にした薬剤や、制御性T細胞といった抑制性の細胞を標的にした薬剤などの研究が行われている。我々は免疫細胞の代謝障害に注目し、異常なミトコンドリアががん細胞から免疫細胞に伝播し「乗っ取る」ことで代謝障害が起きてしまい、がん免疫療法が効きにくくなることを明らかにした。また、がん細胞を攻撃する細胞を人工的に作成、増殖して体内に戻すような細胞療法も効果が証明された。将来このような治療のおかげで進行がんも「完治」する時代が来ることを期待している。

Advanced Seminar



13:20 ▶ 14:20

自己免疫疾患の治療の最前線

田中 良哉 先生 (産業医科大学医学部 分子標的治療内科学特別講座 特別教授)



全身性自己免疫疾患は難治性疾患とされてきたが、病態形成過程に中心的に介在する細胞表面抗原、サイトカイン、シグナル伝達分子等の解明、ゲノムワイド関連解析により疾患関連遺伝子の同定によって治療標的とすべき分子が明確になってきた。さらに、分子標的治療薬により、副作用が多く非特異的なグルココルチコイドを中心とした治療を脱却し、特定の標的分子に対する選択性治療が主流となりつつある。斯様な背景の下に関節リウマチ、全身性エリテマトーデスを始め多くの疾患でガイドラインや治療勧告の改訂が進行しつつある。一方、長期安全性、経済性、コロナ禍医療、難治症例、臓器障害への対応、寛解後休薬、治療薬の使い分けなど残存する多くの課題に対しても新たな展開が齎されつつある。さらに、CAR-T療法やT-cell engager療法には、免疫系の再構築を引き起こして治癒を目指せる可能性すら期待される。

Advanced Seminar



15:35 ▶ 16:35

遺伝子改変免疫細胞による次世代がん治療の展望

玉田 耕治 先生 (山口大学細胞デザイン医科学研究所 所長)



難治性がんに対する最新の免疫療法として、遺伝子改変免疫細胞療法の研究と開発が急速に進展している。特にキメラ抗原受容体(CAR:Chimeric Antigen Receptor)をT細胞に遺伝子導入したCAR-T細胞療法は血液がんに対して優れた治療効果を発揮し、既に臨床応用されている。一方で、特有の有害事象を伴うこと、比較的多くの再発例が認められること、固形がんでは十分な有効性が得られていないことなど、未だ多くの課題が残っている。本講演では、これらの最新がん免疫療法の現状と課題について概説し、さらに進んだ次世代型CAR-T細胞療法を含めた最新の遺伝子改変免疫細胞療法の将来像について議論する。